



平成 26 年 4 月 22 日

3次元化で段築構造が明瞭に —岡山市津倉古墳の測量調査—

概要：本学文学部学芸員課程・考古学研究室は 2014 年 3 月に、最新の遺跡測量法を用いて岡山市津倉古墳の現在形状に関する詳細な測量を行いました。現地観察とデータの 3 次元ビジュアル化により、同古墳の墳丘の段築構造が明瞭となりました。今後、データの整理・解析を進めるとともに、古墳の規模や時期、周辺遺跡との関係等の解明を継続する予定です。

〈成果〉

岡山大学文学部学芸員課程・考古学研究室は 2014 年 3 月 3～14 日に、津倉古墳（岡山市北区京山一丁目）の現在形状に関する詳細な測量を行いました。

津倉古墳は従来、古墳時代前期の前方後方墳（墳長 40m 前後）であることが知られており、1980 年代末頃には岡山大学考古学研究室による平板による等高線測量も行われました。今回の調査では、トータルステーションによる等高線測量と、(有) 關施工管理事務所のご支援による 3 次元測量という 2 種類の測量を実施しました。その結果、現在の墳丘に関する詳細な記録が可能となりました。また現地での観察と 3 次元測量データの解析の結果、前方部 2 段築成、後方部 3 段築成である可能性が高いことがビジュアルな図上で認識可能となり、古墳調査における同測量方法の有効性を示すことができました。

〈今後の展望〉

津倉古墳の調査の目的は、古墳と集落の動向をあわせた古墳時代前期社会の地域モデルを構築することにあります。津倉古墳の北方約 2km の烏山・半田山山塊には、弥生時代の終わりから古墳時代のはじめにかけての墳丘墓や古墳が築造されています。考古学研究室ではこれまで弥生時代後期末の都月坂 2 号弥生墳丘墓や古墳時代前期の同 1 号墳（前方後方墳）および七つ坵古墳群（前方後方墳等）の発掘調査を行ってきました。今後、学芸員課程・考古学研究室ではデータ整理・解析を進めるとともに、現地調査や周辺古墳に関する 3 次元測量の実施等により、津倉古墳の時期や規模、周辺遺跡との関係性について追究する予定です。

〈お問い合わせ先〉

岡山大学文学部学芸員課程・考古学研究室

准教授 光本 順・教授 新納 泉

(電話番号) 086-251-7445 (光本)

086-251-7418 (新納)

(メール) jun_m@cc.okayama-u.ac.jp (光本)

iniiro@cc.okayama-u.ac.jp (新納)